

第1回滋賀県総合教育会議の結果について

文教・警察常任委員会資料
平成28年5月18日(水)
教育委員会事務局教育総務課

会議次第

平成28年4月27日(水)

16:00～18:00

県庁東館7階大会議室

子どもたちの学ぶ力を高める取り組みについて

【ヒアリング】

(秋田県派遣)

○秋田県潟上市立大豊小学校 森井 貴士 教諭

(福井県派遣)

○滋賀県長浜市立長浜小学校 吉田 典子 教諭

主な意見等

《子どもたちの学ぶ力を高める取り組みについて》

秋田県、福井県への派遣教員から両県の教育の取り組み等について報告いただいた後、質疑・意見交換を行った。

- ・秋田県、福井県の良いところは真似していく。その上で、滋賀県として学ぶ力を高めるための取り組みをさらに進めていってほしい。
- ・秋田県では子どもたちが問題を自分で解決するために、まず問題を子どもたち自らで発見していると感じた。また、福井県は大学などを通じて先生の力を上げようとする取り組みがうまく感じた。
- ・福井県のコアティーチャーや授業名人、秋田県のスーパーティーチャーと、各県同様の取り組みをしている。
- ・滋賀県の授業風景を見て良いと思ったところは、考える力をベースにして、授業に全員が参加できるような仕組みになっていること。一人で考えて、ペアで考えて、グループで考えて、最後にまとめるという形ができています。
- ・授業改善に向けて、現場の先生が主体的に取り組んでいく必要があるが、ポイントは、「何のためにという必要性」と「具体的に何をすればという見通し」を教員が感じることと思う。
- ・秋田県、福井県ともに、ユニバーサルデザインを重視した授業を行っている。小黒板で学習の流れを示すことで、目当てと見通しをどの子にも持てるように、また、板書を構造化して、目に訴えてわかりやすくするなどの「視覚化」、何について話し合っているのかが分かるように、また、するであろうつまづきも授業に取り入れる「焦点化」、どの先生が入っても授業が成立するという「共有化」を重視している。授業スタイルの統一も大きい。
- ・秋田県は教員の数が多いと感じる。学習支援員が多く、チームティーチングを含めて、個別の指導を行っている。
- ・滋賀県の強みは多様性であると思う。それに加えて、一見弱みに見えていることを強みに変えていくことができないかと考えている。例えば、若手教員が急激に増えてきたので、それを生かした取り組みをやっていったらどうか。
- ・福井県では、例えば、生活規律でも、給食の後片付け時の人への思いやり、ちょっとしたことで生活の中で価値を見出す指導が学校全体でされている。
- ・全員が共通して実践していることが一つでもあれば、これだけは毎時間、全員、全教室が必ずやっているということが教育の団結力につながるのではないかと考える。
- ・授業の型とか、スタイルはあるが、教員の個性を生かし、子どもに合わせて、授業の土台をそろえると授業の改善うまく進むということを前向きにアピールしながら広めていくのがよいと思う。
- ・教員の多忙感については、授業に集中できる環境などを整えて、教員でなければやれないことに一生懸命取り組んでもらうことが重要である。

